

「使徒の補充」

使徒1:15~26

1. はじめに

(1) 前回の内容の確認

- ①昇天(9~11節)
- ②エルサレムへの帰還(12節)
- ③一致した祈り(13~14節)

(2) アウトライン

- ①指導者ペテロ(15節b)
- ②ユダの運命(16~19節)
- ③ペテロの提言(20~22節)
- ④12番目の使徒(23~26節)

結論: 使徒について

使徒の補充について学ぶ。

I. 指導者ペテロ(15節)

1. 15節

Act 1:15 そのころ、百二十名ほどの兄弟たちが集まっていたが、ペテロはその中に立ってこう言った。

- (1) ペテロは、120名ほどの信者の群れのリーダーとして行動している。
 - ①昇天から聖霊降臨までの10日間、彼らは熱心に祈っていた。
 - ②使徒の働きの前半は、ペテロを中心に物語が展開する(1~15章)。

(2) それゆえ、ペテロの経歴の再確認が重要になる。

- ①ヘブル名はシメオン。

Act 15:14 神が初めに、どのように異邦人を顧みて、その中から御名をもって呼ばれる民をお召しになったかは、シメオンが説明したとおりです。

- ②イエスが与えたニックネームは、ギリシア語でPetros、アラム語でKepha。

Joh 1:42 彼はシモンをイエスのもとに連れて来た。イエスはシモンに目を留めて言われた。

「あなたはヨハネの子シモンです。あなたをケパ(訳すとペテロ)と呼ぶことにします。」

- ③ペテロとアンデレは兄弟で、ベツサイダ出身の漁師であった。

*一番初期に召された弟子たちであった。

*元はバプテスマのヨハネの弟子であった。

④ペテロは結婚しており、カペナウムで大きな家に住んでいた。

*この家は、会堂に近かった。

*ペテロの姑は、イエスによって熱病が癒された。

⑤ペテロの名は、常に12使徒のリストの最初に出てくる。

*マタ10:2、マコ3:16、ルカ16:14、使1:13

⑥イエスに最も近かった3人の中に入っている(ペテロ、ヤコブ、ヨハネ)。

⑦イエスを3度拒否した(四福音書すべてにこの記録がある)。

⑧復活のイエスを見た最初の使徒である。

Luk 24:33 **すぐさまふたりは立って、エルサレムに戻ってみると、十一使徒とその仲間が集まって、**

Luk 24:34 **「ほんとうに主はよみがえって、シモンにお姿を現された」と言っていた。**

⑨復活のイエスは、ペテロを教会の羊飼いに任命された(ヨハ21:15~17)。

⑩彼には、「天の御国の鍵」(複数形)が与えられた。

Mat 16:19 **わたしは、あなたに天の御国のかぎを上げます。何でもあなたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。」**

*ユダヤ人の救い(2章)

*サマリヤ人の救い(8章)

*異邦人の救い(10章)

⑪ユダヤ的に言えば、彼はラビ長として奉仕をしたのである。

*律法に関わることについて判断を下した。

*罪を裁いた。

*彼の権威は、超自然的な力によって証明された。

・アナニヤとサッピラの死(使5:15)

⑫使15章以降、巡回伝道者として奉仕をしたと思われる。

II. ユダの運命(16~19節)

1. 16~17節

Act 1:16 **「兄弟たち。イエスを捕らえた者どもの手引きをしたユダについて、聖霊がダビデの口を通して預言された聖書のことばは、成就しなければならなかったのです。**

Act 1:17 **ユダは私たちの仲間として数えられており、この務めを受けていました。**

(1)「**聖霊がダビデの口を通して預言された聖書のことば**」

①ペテロは、聖書の靈感を信じていた。

*二重著者(聖霊とダビデ)

②ユダの裏切りは、聖書預言の成就である。

*詩篇から2箇所を引用した(詩69:25、109:8)。

③「成就しなければならなかったのです」は、神の計画から見た必然性である。

④ユダは、使徒のひとりとして任命を受けていたが、イエスを裏切った。

(2) ルカは、ペテロの話をさえぎる形で挿入句を入れ、ユダの死について説明する。

2. 18節

Act 1:18 (ところがこの男は、不正なことをして得た報酬で地所を手に入れたが、まさかさまに落ち、からだは真っ二つに裂け、はらわたが全部飛び出してしまった。)

(1) ルカは、ユダが不正な報酬で地所を手に入れたと書いている。

①マタ27:3~10では、祭司長たちが地所を買ったことになっている。

②ユダヤ的に解釈するなら、これは矛盾ではない。

③献金が不正の富である場合、それは献金者に返還された。

④ユダの場合は、すでに自殺していたので、返還は不可能であった。

⑤それゆえ、祭司長たちはユダの名で地所を買い、公の用に供したのである。

(2) ルカは、「からだは真っ二つに裂け、はらわたが全部飛び出してしまった」と書いている。

①マタ27:5

Mat 27:5 それで、彼は銀貨を神殿に投げ込んで立ち去った。そして、外に出て行って、首をつった。

②ユダヤ的に解釈するなら、矛盾は解決する。

③死体は汚れと見なされ、城壁内に夜を越えて留まることは許されなかった。

④ユダの死体は、城壁からヒンノムの谷に投げ落とされた。

3. 19節

Act 1:19 このことが、エルサレムの住民全部に知れて、その地所は彼らの国語でアケルダマ、すなわち『血の地所』と呼ばれるようになった。))

(1) この話は、エルサレム中で有名なものとなった。

①彼らは、その地所を「血の地所」と呼んだ。

②血塗られた金を使って、ユダの名で買われた地所である。

③アラム語で「アケルダマ」である。

(2) 挿入句はここで終わり、ペテロの話に戻る。

Ⅲ. ペテロの提言 (20～22 節)

1. 20 節

Act 1:20 実は詩篇には、こう書いてあるのです。『彼の住まいは荒れ果てよ、そこには住む者がいなくなれ。』また、『その職は、ほかの人にとらせよ。』

(1) 詩 69 : 25 と詩 109 : 8 を引用した。

①詩篇の中には、悪人に神の裁きが下るように祈り求める詩篇がある。

*これは、「復讐」ではなく、「神の義」が守られることを願うものである。

②ペテロが引用したのは、ともにこの範疇に入る詩篇である。

(2) ダビデは、具体的にユダについて預言したわけではない。

①引用した2つの聖句は、王に対する反逆者が裁かれるようにという祈りである。

②王はメシアの予型である。

③イエスを裏切ったユダは、旧約聖書における「王に対する反逆者」と同じ。

④「王に対する反逆者」が裁きを受けたとするなら、イエスを裏切ったユダが裁きを免れるはずがない。

*これは、「大から小への議論」(カル・バホメル) である。

2. 21～22 節

Act 1:21 ですから、主イエスが私たちと一しょに生活された間、

Act 1:22 すなわち、ヨハネのバプテスマから始まって、私たちを離れて天に上げられた日までの間、いつも私たちと行動をともにした者の中から、だれかひとりが、私たちとともにイエスの復活の証人とならなければなりません。」

(1) 使徒となる資格

①イエスの公生涯の期間、共に行動した者であること。

*バプテスマのヨハネの活動から、イエスの昇天に至るまでの間のこと。

②イエスの復活の目撃者であること。

*使徒の使命は、イエスの復活の証人となること。

*福音の中心は、イエスの復活にある。

*彼らの証言によって、多くの人たちがイエスを救い主と信じるようになる。

(2) この条件に合う者は、120人の中で2人しかいなかった。

- ①どちらが神から選ばれているかは、神に訊ねるしかない。

IV. 12番目の使徒(23~26節)

1. 23節

Act 1:23 そこで、彼らは、バルサバと呼ばれ別名をユストというヨセフと、マッテヤとのふたりを立てた。

(1) 「バルサバと呼ばれ別名をユストというヨセフ」

- ①ヨセフ

- ②2つのニックネームがあった。

*ヘブル名は、バルサバ(安息日の息子)。安息日に誕生したか。

*ローマ名は、ユスト。

(2) マッテヤ

- ①ここ以外に情報がない。

- ②伝承では、エチオピアで伝道し、殉教の死を遂げたとされている。

2. 24~25節

Act 1:24 そして、こう祈った。「すべての人の心を知っておられる主よ。

Act 1:25 この務めと使徒職の地位を継がせるために、このふたりのうちのどちらをお選びになるか、お示してください。ユダは自分のところへ行くために脱落して行きましたから。」

(1) 祈りの根拠

- ①使徒の条件に合う人物が2人いたが、どちらを選ぶべきか分からない。

- ②しかし、神はすでに選んでおられる。

- ③祈りの内容は、神の選びが明らかにされることである。

- ④人間が選ぶわけではない。

3. 26節

Act 1:26 そしてふたりのためにくじを引くと、くじはマッテヤに当たったので、彼は十一人の使徒たちに加えられた。

(1) 彼らが採用した方法は、「くじ」である。

- ①この方法は旧約的なもので、決して間違ったものではない。

*レビ16:8、ヨシ14:2、ネヘ10:34、11:1、箴16:33

- ②両者の名前を記した石を堅い器の中で振り、最初に飛び出た石が当たりである。

*ひとつを取り出した可能性もある。

- ③くじは、マッテヤに当たった。
- ④聖霊降臨以降は、くじを引く必要はなくなった。

(2) これ以降、マッテヤの名は一度も出て来ない。

- ①しかし、12使徒という言葉が出て来る。
- ②彼は、12使徒のひとりとして、忠実に奉仕をしたのである。

*使2:14、6:2

(3) マッテヤの選びの正当性

- ①マッテヤの選びを疑問視する人がいる。
- ②しかし、聖書にはこの方法を非難するような箇所は見当たらない。
- ③パウロは、公生涯の期間イエスと生活をともにしていない。
- ④使6:2には、「そこで、十二使徒は弟子たち全員を呼び集めてこう言った」とあるので、マッテヤを含めた12人が権威をもって奉仕をしていたことが分かる。

結論：使徒について

1. 使徒は、ギリシア語で「apostolos」である。

(1) 使徒の働きの中で30回以上出て来る。

- ①任命を受けた者、遣わされた者

(2) 任命するのは、キリストである。

- ①キリストの権威を委譲され、キリストの代理人として派遣された者

2. 使徒の2区分

(1) 第一義的な使徒たち。12使徒に限定される。

- ①イエスによって個人的に選ばれた。
- ②イエスの公生涯と復活の証人となる。
- ③教会の土台としてリーダーシップを発揮する(エペ2:20)。

Eph 2:20 あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。

- ④メシア的王国においては、12の部族を裁く(マタ19:28)。

Mat 19:28 そこで、イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。世が改まって人の子がその栄光の座に着く時、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族をさばくのです。

- ⑤使徒の補充が重要である理由は、ここにある。

*ユダは、現在の使命も、将来の使命も、放棄したのである。

⑥使徒の継承という概念も、回復という概念も、聖書にはない。

*ヤコブが死んでも(使12:2)、使徒職の補充はなかった。

(2) 第二義的な使徒たち

①イエスの復活を目撃した人たち(1コリ9:1)

1Co 9:1 私には自由がないのでしょうか。私は使徒ではないのでしょうか。私は私たちの主イエスを見たのではないのでしょうか。あなたがたは、主にあって私の働きの実ではありませんか。

②イエスの弟のヤコブ、バルナバ、そしてパウロ

③パウロは、自分が最後だと認識している(1コリ15:8~9)。

1Co 15:8 そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現れてくださいました。

1Co 15:9 私は使徒の中では最も小さい者であって、使徒と呼ばれる価値のない者です。なぜなら、私は神の教会を迫害したからです。

3. 使徒たちは全員ユダヤ人である。

(1) 異邦人クリスチャンは、このことを忘れている。

(2) 使徒は、教会に与えられた聖霊の賜物のひとつである。

①1コリ12:28

1Co 12:28 そして、神は教会の中で人々を次のように任命されました。すなわち、第一に使徒、次に預言者、次に教師、それから奇蹟を行う者、それからいやしの賜物を持つ者、助ける者、治める者、異言を語る者などです。

②エペ4:11

Eph 4:11 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。